



2009年8月5日放送

印象に残る症例①

帝京大学 血管外科 准教授 新見 正則

本日は、私が思っている漢方薬の魅力、そしてそれに出会ったきっかけなどを皆さんにお話しできればと思っております。

西洋医学が万能であれば、漢方薬の出番はほとんどありません。ましてや西洋医学が安全で、そして安ければ、なおさら出番はないんですね。私は約8年前に、日本で初めて保険診療でセカンドオピニオン外来というのを始めました。1時間にお一人お話を聞きましたので、たくさんの方が日本中からいらっしゃいました。そして、たくさんの方のお話をゆっくり聞いているうちにわかったことは、90%以上の方が正しい西洋医学での医療をされているにもかかわらず、満足していない、または腑に落ちていないんですね。それはなんでだろうということを常々思っていました。

例えば、皆さんに分かりやすい例をご紹介します。64歳の男性です。心窩部がムカムカするからお医者さんに来ました。胃癌だと言われて、胃の切除術を受けました。ところが、癌は治りましたが、胃が小さくなって、ムカムカは変わりません。そしてご本人は、ずっと不満なんですね。それはそうです。ムカムカというご本人の症状があるから医者に行ったのに、医者は胃癌という病気を治して、症状を治していません。この患者さんに半夏瀉心湯というお薬を出したら、すっきり治って本当に感謝をされました。

私の専門領域は血管外科です。血管外科には、血管内科という相方がいませんので、たくさんのお患者さんが僕の外来にいらっしゃいます。それこそ、冷える、しびれる、違和感がある、歩けない、腰が痛い、ドキドキする、などなどなど、本当にたくさんのお訴えの方が、いろんな先生に行かれて治らない。そして何とか、血管外科の病気ではないかと思ってやって来るんですね。ところが、血管外科は数年臨床をやれば、その病気が自分の領域のものかはすぐ分かります。だいたい3~4分拝見して、自分の領域ではないなと思うと、丁寧にお断りしていました。そうしたら、ある時、「じゃあ僕はどこに行ったらいいんだ」と。「治してくれる医者を紹介して欲しい」と言われたんですね。そういう言葉から、私は漢方にしまったわけです。

漢方に巡り合って、私の外来で、漢方で良かったら出していますよというお話しをしますと、4人に3人は、血管外科の病気でもなくとも先生の外来に来て良かったと言ってくれます。それは、漢方を処方するときに、西洋医学的病名が不要だからです。もちろん、西洋医学的病名はあったほうが助かります。でも、なくても出せるんですね。

漢方薬の魅力、私は5つあると思っています。最初は、西洋医学的病名が不要であること。副作用がほとんどないこと。そして、費用が安く保険がきくこと。上手く使えば本当によく効きます。最後に、他の訴えや症状、病気も治ります。

まず、最初の症例をご紹介します。38歳の女性、市民マラソンランナーです。毎朝走って、マラソン大好きなんですね。その彼女が、右アキレス腱の痛みを訴えました。整形の先生に相談に行くと、「それは走り過ぎだ、休まなきゃ治らない。病名は腱鞘炎だ」と言われました。色んな西洋医学の鎮痛剤を飲みましたけれど、痛みは軽くなっても、やはり痛いんです。でも走りたい。で、前回、マラソンを走りました。でも5キロで途中棄権。彼女が相談に来たんですね。「何とか先生、走りたいんだ。来月フルマラソンがある。何とかならないか」という相談を受けました。そこで私は、越婢加朮湯という薬を出したんですね。そうしますと日に日に痛みが楽になり、そしてこの市民ランナーは翌月、フルマラソンが完走できました。本当に本当に感謝をされました。越婢加朮湯には麻黄という薬が入っていますから、ドーピングにかかる可能性はあります。でも、趣味で走っているマラソンランナーには本当にこの痛みが取れて、かつ走れるということは幸せな結果になったようです。

もう1例、同じように、65歳の男性、悠々自適、会社を引退して、そしてテニス三昧です。整形の先生に「テニスの肘だ、テニス肘」と言われました。「しばらくテニスを止めろ」と。でも、やりたいんですね。痛み止めは効きません。整形外科医からは、それ以上は治らないと言われていたんですね。この患者さんも越婢加朮湯という薬を出しました。そうしたら、本当に楽になって、そして遂に、喜んで喜んで世界一周の船旅に行っていました。

西洋医学では治らない病気、訴え、つまり西洋医学は十分治しているんです。でも、もうちょっと治したい、そういうときにも漢方薬はとても有効だという、2つの例をご紹介します。

私の領域では、深部静脈血栓症という患者さんがよく来ます。静脈が詰まって、足が腫れて、そして慢性期には静脈、いわゆる僕は下水と説明しています、汚い血液が足に溜まってだるい、重いんだよ、という話をするんですね。西洋医学的には急性期は溶かす薬があります。でも、慢性期になると特別な薬はなく、医療用ストッキングを履いてもらって、何とかむくみを取り、そしてだるい、重いという訴えはしょうがないよ、と言っていました。でも、本当に患者さんはだるいんです。そこで私は、桂枝茯苓丸という薬を20人の深部静脈血栓症の方に出しましたら、15人が、あんなにつらかった、だるい、重いが楽になったと言ってくれました。これも、西洋医学では明らかな薬がない、でもそういう病気に漢方薬は効くのではないかと思って出した結果です。

もう1つ、ご紹介しましょう。それはリンパ浮腫という病気です。これは、同じ足が腫れても、深部静脈血栓症かとちゃんとチェックをして深部静脈は異常がない、でも足が腫れている、そういう患者さんを臨床的にはリンパ浮腫というひとくくりにします。念のため貧血がないか、腎臓の機能は平気か、心臓は平気か、というチェックはちゃんとします。でも異常がなく、足が腫れている、そういう患者さんはリンパ浮腫と言うんですね。こういう方は以前は医療用ストッキングを履いて、そして効くか効かないか分かんないような西洋薬剤をしょうがなく出していました。こういう方、確かに悩んでいるんです。たくさんいらっしゃいます。そういう方に私は、柴苓湯という薬を与えました。そうしますと、34人中26人が、「あの薬は今までのよりも断然いい」と言ってくれるんですね。「何がいいの」と聞くと、「まず楽だ」と言います。そして、足が細くなると。ただ、この細くなったのは、全くずっと昔の健康な足に戻る人は、ほんの少しです。でも、ぱんぱかだった足がずっと細くなるんですね。そして一番は、蜂窩織炎、この頻度が減りますし、万が一なっても悪化しません。ですから患者さんは、柴苓湯を飲んでうまくいった人は、ずっとずっと飲んで良い状態を保ってくれています。

このように、漢方薬の魅力というのは、西洋医学で治せない訴え、そういうものが治せるということです。ですから、西洋医学がそれこそ完璧であって、そして患者さんが全く不満を訴えなければ、漢方薬の出番はないかも知れません。でも、皆さんが、患者さんに「何か困ったことはありますか」と、ぜひ聞いてみてください。そうすると、いろんな訴えをするんですね。私も昔は、そんなことは聞きませんでした。ひたすら自分が治せる病気の質問だけをするんですね。ですから、多くの医療従事者は、「私の所に来ている患者さんは決してなんにも他の訴えはないよ」と思っています。それは、患者さんが話してはいけないことを選んで、話していないんですね。患者さんは悩んでいるんです。お話ししたように、整形外科に行ってけっこう良くなった、でも、でも走れないんだ、でもテニスガ

できないんだ、だいぶ良くなったけど、もう一步良くなりたい、こんな方はたくさんいます。

また、私の領域でお話しした深部静脈血栓症、リンパ浮腫、これはたくさんの方が悩んでいて、同じように薬がなく、いろんな対症療法をして、なんとか良い状態だと納得しているんですね。そういう方に心を開いて「困ってないの」と聞けば、足がだるい、重いと言ってくれます。そういう症状が漢方薬で治ることがあります。ほんとに多くの方が治ります。4人に3人は治ると、僕の経験からは思っているんですね。

ですから、このラジオ放送なりインターネットを聞いて、皆さまが分かって欲しいことは、西洋医学で治せないような訴えがある患者さん、そういう患者さんを診た場合には、漢方薬という別の引き出し、それを試すと、うまく漢方薬を使えば、本当に患者さんが楽なことがあると。で、そういう病気を見つけるのは、西洋医学を極めた先生だからこそ出来るんです。西洋医学で十分極めた、でもその西洋医学の薬で十分な満足感が実は得られていない。そういう場合に、ぜひぜひ漢方薬を勉強していただいて、最初は病名投与、症状投与で十分です。そしてそのあとに漢方診療を勉強されて、より確率の高い、打率が上がる漢方処方されると、世の中のために役に立つと思っています。ぜひ、西洋医学の専門の先生だからこそ、漢方薬を理解し、親しんでいただきたいと思います。